

仏様のおはなし新シリーズ第130集「帰る世界をもひつのは今」

親鸞聖人は浄土に往生することを「法性(ほっしょう)のみやこにかえる」と表現されます。「法性」とは、悟りの智慧によつて確認される真理の領域のことであり、「みやこ」とは都會のことです。都會とは法の秩序が行き渡つていて、人がたくさんいる場所のことを言います。親鸞聖人はお浄土を、悟りの智慧の行き届いた世界であり、また、たくさんの悟りの仲間がいる世界だと味わつておられるのです。

2歳だった娘と公園に出かけた時の話です。夕方になり私が「そろそろ帰ろうか?」と話しかけると娘は「いやだ!」と答えます。「お家に帰つたらご飯があるよ」と言うと再び「いやだ」。

しばらく考えて「お家に帰つたらお母さんがいるよ」と言うと、それまで遊びに夢中になっていた娘が顔を上げて「違う!」と答えました。

私はびっくりして「え、違うの?お母さんいるよ?」と言つと、娘は「えつとね、しのちゃんのお家にはね、お母さんと、しまじろうと、ひこにゃんがいるの」と答えました。

私は「ああ、この子はなんて豊かな世界に生きているのだろう」と感嘆しました。娘にとって家とは、お母さんと、しまじろうと、ひこにゃんが待つていても賑やかで豊かな場所なのです。

娘の言葉を聞いて、私は浄土真宗の御教えをふと味わうこととした。私たちが安心して生きるために、安心して帰る家が大切です。家と言つても普段寝泊まりしている婆婆の家だけでは心許ありません。なぜなら、そこは必ず出て行かなくてはならないからです。婆婆の家は言うなれば仮の宿のようなものです。まことの家とは阿弥陀様のお浄土です。

阿弥陀様は命の行き先に不安を抱える私に「あなたの命がどのような終わり方をしても、私があなたを浄土に迎えとり仏にする」と、お念佛を通して呼びかけてくださいます。そして、そのお浄土は悟りの仲間たちが大勢いる世界です。私たちは大変豊かな世界を頂戴しているのです。

私たちがまことの家であるお浄土に帰るのはこの命を終えた時ですが、お浄土をいただくのはただ今です。



福岡組 検索